

小児患者の服薬アドヒアランス向上に寄与した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、新規薬剤の開始前に服薬指導を行い、小児患者の服薬アドヒアランス向上に寄与できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

- ▶原疾患に対する治療目的で入院中の患児
以下の薬剤について、内服開始となった。

【入院処方（一部抜粋）】

Rp. プレドニゾロン錠 5mg 1日8錠（1日3回 ※不均等）
-粉砕指示-



Eさん

服薬指導時

Eさんに今日から新しいお薬が始まります。
今まで錠剤のお薬を飲んだことはありますか？

粉薬しか飲んだことはないです。

分かりました。
先生が粉薬（錠剤の粉砕指示）で処方されていますが、苦みが強い
お薬です。もし苦味で飲めないようでしたら、小さい錠剤ですので、
飲めるか試してみることもできます。その時は相談してください。
（※実際にプレドニゾロン錠を見せて説明）

小さいお薬ですね。分かりました、飲めない時は相談してみます。



Eさんの母親



薬剤師

後日

お薬が錠剤に変更になっていましたね。
錠剤は服用できていますか？

実は粉薬は苦くて吐き出してしまったんです。相談して錠剤に変えて
もらいました。小さい錠剤なので飲めています。



その後、服薬に問題なく治療を継続できた。

新規薬剤の開始前に服薬指導を行い、錠剤の服用歴の確認や、錠剤の味・サイズ等を事前に
情報提供することで、小児患者の服薬アドヒアランス向上に寄与できた。